

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792530032		
法人名	医療法人 健山会		
事業所名	グループホームすみれ・梨の木 A棟		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町字梨木西44番1		
自己評価作成日	平成28年2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>住み慣れた地域で、今までの人間関係を継続出来るよう、出来る限りの配慮を心がけている。食べる事が楽しみなので、食事作りには細心の注意を払い、喜んで頂ける食事の提供に努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1. 職員の資質向上を図るため、毎月計画的に内部研修会を実施し、資格取得を推奨している。</p> <p>2. 医療機関と連携し、日常の健康管理、疾病の早期発見、早期治療を行い、安心して生活できる体制を整えており、看取り介護についても利用者や家族の意向を尊重した終末期のケアに取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念に基づいて、全職員共有して実践している	理念を掲示し全職員で確認するとともに、その理念を共有し、実践につなげるため各種会議で具体的な取り組みを話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域ボランティアの方々に慰問して頂き、交流している	地域自治会に加入し、夏祭り、芋煮会等の行事に地域住民が参加したり、中学生の体験学習の受け入れや民謡、カラオケ、民話語り、フラダンス等のボランティアを受け入れ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々と交流の場を設け、貢献出来るよう取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	利用状況など報告し、具体的な改善策や意見を頂き活かしている	運営推進会議の委員として、町の担当者、地域包括職員、民生委員、消防署員、ボランティア代表、利用者や家族代表が参加し、定期的に開催している。利用者状況や職員の勤務状況、行事予定や防災訓練、研修会、事故について報告し、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を取り、積極的に情報交換を行い、協力関係を築いている	町の担当者が運営推進会議に参加し、事業所の実情やケアサービスの取り組みを理解しており、関係法規の指導を受けたり、運営に関する情報交換を行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議時に、資料に基づき正しく理解を深め、実践している	身体拘束排除のマニュアルを整備し、研修を実施し、入浴時や着替え時に身体異常を把握したり、職員の言葉遣いをその都度確認している。家族と早い段階からリスクについて話し合い、情報を共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議時に、実際にあった事件の内容を話し合い、理解を深め、注意を払い防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や講習会に参加し、理解を深め、活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様や家族からの不安や疑問点を尋ね、納得して頂けるよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族からの意見、要望に対し、話し合いの機会を設けている	事業所では、担当者から利用者の生活状況を毎月家族に報告している。利用者との会話や家族訪問時に意見、要望を把握するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議において、自由に意見や提案を話せる環境を整えている	管理者は個別面談を実施したり、各種会議で運営に関する職員の意見や提案を取り入れ、資格取得の推奨等働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者との打ち合わせの回数を多く持ち、現場の状況をよく把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップの為に研修等の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ企業間の交流、地域における勉強会等に積極的に出席している		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様本人の不安や要望等に耳を傾け、安心出来る雰囲気作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの不安や要望等は、遠慮なく話して頂くよう、声掛けしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が、今必要としている支援は何か、話し合いをしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、入居者様の思いを会話にて把握し、自立出来るよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と情報交換を図り、共に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所について把握し、希望があれば、一緒に出掛けている	家族の協力で希望の理美容院の利用やドライブ、墓参りに出掛けたり、散歩や買い物等の外出や外食、知人の訪問を受け入れるなどこれまでの関係が途切れないよう、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状態に合わせ、席を考慮したり、レクリエーションなどで交流している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて本人、家族の相談に応じ、支援に努める		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の思い、その人らしさ、要望を把握し、困難な場合は本人の立場に立ち検討している	利用者との会話やこれまでの生活、家族からの情報から、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、利用者の趣味の塗り絵や折り紙、仏像等の興味関心など、日常生活の中で継続されるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方に情報を頂き、馴染みの暮らし方が出来るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や動作の様子観察し、心身状態の変化の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状と、家族からの要望を伺い話し合い、介護計画を作成している	利用者との会話、家族からの情報、これまでの生活、医師等の意見を基に職員間で話し合い、課題を解決するためのサービス内容を掲げた支援計画を作成し、状況変化時には現状に即した介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを記録し、職員間で情報を共有しながら改善策を話し合い、介護計画の見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせ、必要なニーズに対応し、柔軟な支援が出来るよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気楽に親しい友人に来て頂き、楽しく安全に暮らして頂けるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にスタッフ同行で受診し、体調が悪い時は家族に連絡している	利用者、家族の希望する医療機関を選ぶことができる。運営母体の医療機関と協力医は往診体制があり、重度化や看取り介護を視野に入れ、協力医を希望する利用者、家族が多くなっている。通院は家族対応を原則としているが、家族の都合で事業所の通院支援が多くなっている。受診結果は双方で共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中、入居者様の体調の変化に気づき、看護師等に伝え、適切な受診や処置を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の既往歴の情報を提供し、退院時は診療情報提供書などの情報を頂き対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望を伺い、入居者様の状態を説明し、話し合いを行い、終末期に向けた支援に取り組んでいる	事業所の「重度化・看取りに関する指針」により説明し理解を得ている。また、重度化や終末期の対応については、利用者、家族等の意向を確認し意向に添うよう努め、終末期の対応について家族・医師・事業所等関係者が話し合い、書面で確認しながら看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故等に対応出来るよう、緊急対応マニュアルを含め、定期的に勉強会を行い、実践力を身に付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員と入居者様が、災害等の避難訓練を、色んな想定にて実施している	火災を想定した避難訓練(夜間想定含む)を年3回実施しており、防災に関する学習会も毎月実施しているが、消防署の立ち会いの訓練は実施されていない。非常災害時備蓄品は準備されている。	火災だけでなく地震、風水害等あらゆる災害を想定し、昼夜を問わない訓練を数多く実施し、利用者を安全に避難誘導できるよう実体験を積んで欲しい。また、地域の方の協力が得られる取り組みが望まれる。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重を大切に、失礼のない言葉かけや対応をしている	サービス提供場面では、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を徹底している。不適切な言動や対応と思われることが見られた場合は、職員間でお互い注意しあい、利用者の人格を尊重した支援に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に寄り添い、本人の思いや希望を遠慮なく話して頂けるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分らしい生活ペースを大切に、希望に沿って支援出来るよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来るよう、理美容等の対応をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事のメニューの希望を聞いたり、一緒に食事を味わいながら、楽しい食事になるよう支援している	日常の会話の中で、利用者の好みや希望を把握し献立に反映しており、食材の下準備や食器洗いなど利用者が出来ることを手伝い、食事を一緒に摂りながら楽しい食事となるよう支援している。また、誕生日にはリクエストメニューを取り入れ、折に触れて外食等も実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、食べる量、ミキサー食、刻み食と分けて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず本人の力に応じた介助を行い、うがいの出来ない人は歯磨きティッシュにて対応し、就寝時は義歯の消毒も行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、少しでもオムツの使用を減らせるよう支援している	排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の状態に合わせた声かけ誘導を行い、自立に向けた排泄支援を行っている。その結果オムツ等の使用が軽減された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各自の状態を確認しながら、水分摂取やヨーグルトの提供をしたり、予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調、タイミングに合わせて、ゆったりと入浴して頂けるよう努めている	本人の希望により入浴が出来るよう支援している。また、菖蒲湯等の季節湯や入浴剤を利用しリラックス出来るよう支援している。入浴を好まない利用者には、時間帯や入浴日を変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせ、安眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報を把握し服薬介助を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好みの食べ物、楽しみ事を把握して、楽しく生活出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って買い物や散歩や外食に出掛けたり、家族と外出等出来るよう支援している	本人の希望により家族と墓参りを兼ねて自宅に泊まったり、外食などに出かけられるよう支援している。また、散歩や買い物、ドライブ、外食など職員と一緒に出かけられるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状況に応じて対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望により、電話をしたり、手紙のやり取りが出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が居心地良く過ごせるよう、季節を感じられる飾りつけなど、工夫をしている	観葉植物を配し、カレンダーや写真を飾り、清潔感を保ち湿度・温度管理を行い居心地良く過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に隣の棟に行ったり、居室にて休まれたり、ゆったりと過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	以前、自宅で使用していた馴染みの物を居室へ飾って頂き、その人らしく暮らして頂けるよう工夫している	居室には、使い慣れたテレビや机、椅子等を持ち込み家族写真、花卉を飾り安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ、出来る事は自立にてやって頂くよう声掛けし、安全に生活が送れるよう支援している		